

水道事業ビジョン 令和3年度評価

【総合評価】

- 「目標に向けて計画通りに進捗」
- 「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」
- 「取組内容の拡充や見直しが必要」

【今後の方向性】

継続…現状通り取組を継続することが
適当である
拡充…取組方法の拡充を図る必要がある
縮小…取組方法の規模の縮小を図る

改善…取組内容や方法を見直す
必要がある
廃止…取組を廃止すべきである
事業完了…目標達成のため終了した
事業

【主な指標の評価】

各指標の目標値を基準にした評価

目標値に向けて
順調に進んでいる

目標値から離れている
進捗の遅れ等で数値が
悪化している

| | 目標 | 実現方策 | 具体的な取り組み | 総合評価 | 今後の方向性 | 主な指標 | | | | | 主な指標の 評価 | 備考 | |
|-----------------|----------------|---|---|---|------------------|------------------------|-----------------|--------------|--------------|-----------------|----------------|----------|---|
| | | | | | | 指標名 | 基準値 (2017年度) | 前年度 | 2021年度 | 目標値 (2028年度) | | | |
| 安全 | 1. 安全な水を届けます | 1 適切な水質管理(水安全計画の推進) | <ul style="list-style-type: none"> 水道水の安全性を維持するため、水安全計画を推進する。 流水浄水場の水源である深井戸の適正な維持管理を実施する。 前年度に構築した流水浄水場水源監視のための水質検査体制を維持する。 水安全計画に基づいた管理目標値を遵守するため、設備点検及び水質検査を実施する。 多種多様な手法での取り組みにより、効果的・計画的な鉛製給水管の解消を図る。 | 1 水質管理の徹底など水安全計画を推進し、各種の取り組みについては順調な進捗で目標到達が見込める状況である。 | 継続 | 原水水質監視度 | 37項目 | 43項目 | 43項目 | 43項目 | ▲ | 1ヶ月に1回以上 | |
| | | 2 安定した給水 | <ul style="list-style-type: none"> 給水装置工事施行要領に基づいた設計審査及び工事検査の実施を行う。 小規模貯水槽設置者へのリーフレット配布や指導マニュアルの更新を行う。 直結増圧給水方式への変更を啓発し、直結給水の普及促進を行う。 指定更新手続の該当事業者へ通知を行い、指定更新の周知と手続を促す。 登録情報の修正手続を促し、事業者の把握している運営状況の更新を図る。 | 1 給水装置の安全性や貯水水道における衛生的な水の確保など、適切な取り組みは遂行できている一方、経年化による給水管の漏水は増加傾向にあるため、今後も指標数値による給水管の健全性を把握しつつ、安定した給水を継続する。また、指定給水装置工事事業者の更新手続の案内によって、事業者の実態把握が大きく進んだ。今後も周知の徹底と状況確認の把握に努める。 | | 継続 | 給水管の事故割合 | 2.6件/1000件/年 | 2.9件/1000件/年 | 2.9件/1000件/年 | 2.6件以下/1000件/年 | | ▲ |
| 強靱 | 2. 耐震化を進めます | 1 水道施設の耐震化の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 光明配水場配水池の耐震工事実施設計を行う。 地震に強い配水系統を構築するため、基幹管路等の耐震化を進める。 | 1 配水池や水道管などの水道施設について、中長期計画に基づき効率的で効果的な耐震化は順調に進捗している。 | 継続 | 配水池の耐震化率 | 19.0% | 19.0% | 19.0% | 67.0% | ▲ | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | 3. 災害に備えます | 1 危機管理装備の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 現状と課題の整理を行い、課題への対応に必要な整備項目を検討する。 白原配水場の自家発電設備及び応急給水栓設置の実設計を行う。 | 1 応急給水拠点の整備計画を策定し、必要な設備の整備に着手しており、危機管理装備の充実に向けた取り組みは順調に進捗している。 | 継続 | 応急給水設備の設置箇所数 | 6箇所 | 6箇所 | 6箇所 | 8箇所 | ▲ | | |
| | | 2 危機管理体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> 現状のマニュアルについて、近年の災害状況や情勢に合わせた更新を行う。 災害対策用品の調達を行う。 災害時の応急給水拠点の確認を行う。 各種災害対策マニュアルに記載されている役割分担を踏まえた訓練を行い、職員ひとりひとりの防災意識と防災力を高めていく。 | 1 和歌山市の水管橋事故への給水支援の経験を活かし、迅速な災害対応が行えるように、引き続きマニュアル整備、訓練の充実を行う。また、新型コロナウイルス感染症によって発生するリスクを踏まえ、様々な状況に対応できるよう、危機管理能力の向上に努める。 | | 継続 | 自家発電設備設置ポンプ所数 | 6箇所 | 6箇所 | 6箇所 | 7箇所 | ▲ | |
| 持続 | 4. 健全な施設を保持します | 1 老朽化した施設の適正な維持管理・更新 | <ul style="list-style-type: none"> 更新基準年数や老朽度等を多面的に検討した効率的な管路の更新を行う。 中長期計画に基づく設備の更新を推進する。 管路情報を一元管理するマッピングシステムにより、計画的な維持管理を行う。 安定して水道水を供給するため、計画的な維持管理を推進する。 | 1 中長期計画に基づき、老朽化した施設の適正な維持管理・更新を実施した。継続して事業を推進する。また、施設台帳については、マッピングシステムにより一元管理をするため、引き続き台帳整備を行う。 | 継続 | 法定耐用年数超過管路率 | 27.2% | 33.6% | 34.7% | 39.0% | ▲ | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 水道施設規模の最適化 | <ul style="list-style-type: none"> 管路更新時における、実情に応じたダウンサイジングでの最適化を実施する。 流水浄水場内の1・2・3号配水池の廃止に向けた管路工事について、検討、実施設計を行う。 | 1 中長期計画に基づき、将来の水需要減少に応じた規模で更新整備を実施しており、水道施設規模の最適化は順調に進捗している。 | 継続 | 法定耐用年数超過設備率 | 31.7% | 37.5% | 39.5% | 37.5% | ▲ | | | |
| 5. サービスの向上に努めます | 1 お客様の利便性向上 | <ul style="list-style-type: none"> お客様一人ひとりの生活様式に合わせて、水道の開閉栓や水道料金の収納などの手続きを容易に行えるよう、多様なサービスの提供と周知に努めた。 | 1 口座振替、最寄りの銀行やコンビニの窓口、スマートフォン決済での納付が収納額全体の98%を超え、多くのお客様に支持されている。令和2年11月に導入したスマートフォン決済の収納額は、収納額全体に占める割合が約1%であるが、導入初年度と比べ月平均2.4倍に増加している。引き続き、お客様の利便性向上を図るため、既存のサービスの周知に努めるとともに、新たな決済サービスについて調査検討を行う。 | 継続 | インターネットによる情報の提供度 | 199回/年 | 354回/年 | 293回/年 | 300回以上/年 | ▲ | | | |
| | 2 水道事業の見える化 | <ul style="list-style-type: none"> 局内の情報発信能力の底上げのため、局内ホームページの定期的な更新を行った。 新たな情報発信ツールとしてSNSの利用を検討した。 水道事業への理解を深めてもらうため、流水浄水場の見学を実施する。(新型コロナウイルス感染症対策として受入中止) | 2 新型コロナウイルス感染症により直接市民に広報・広聴する機会が設けられなかったため、ホームページ等による情報発信の強化に努めた。今後も新しい生活様式に合わせた情報発信方法や広聴活動手段を模索していく。 | | 継続 | ホームページアクセス数増加割合(前年度比較) | 100% | 128% | 97% | 100% | ▲ | | |
| | | | | | | 水道施設見学受入回数 | 10回/年 | 受入なし | 受入なし | 10回以上/年 | ▲ | | |

水道事業ビジョン 令和3年度評価

【総合評価】
 1…「目標に向けて計画通りに進捗」
 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達の見込みがある」
 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」

【今後の方向性】
 継続…現状通り取組を継続することが適当である
 改善…取組内容や方法を見直す必要がある
 廃止…取組を廃止すべきである
 縮小…取組方法の規模の縮小を図る
 事業完了…目標達成のため終了した事業

【主な指標の評価】
 各指標の目標値を基準にした評価
 目標値に向けて順調に進んでいる
 目標値から離れている
 進捗の遅れ等で数値が悪化している

| | 目標 | 実現方策 | 具体的な取り組み | 総合評価 | 今後の方向性 | 主な指標 | | | | | 主な指標の評価 | 備考 | |
|---------------------------|------------------------|---|--|---|---------------|-----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|---------|----|--|
| | | | | | | 指標名 | 基準値 (2017年度) | 前年度 | 2021年度 | 目標値 (2028年度) | | | |
| 6. 業務の 効率化を 図ります | 1 | 業務体制の効率化 | ・現在導入されているシステム・機器を業務に合わせて適切に維持管理していく。 ・水道施設台帳の記載内容を更新する。 | 2 | 継続 | | | | | | | | |
| | 2 | 環境負荷の低減対策 | ・施設更新時における省エネルギー設備の導入検討を推進する。 ・小水力発電の活用を推進する。 ・工事において、環境負荷の小さい機械材料を積極的に使用し、環境負荷の低減に努める。 | 1 | 継続 | 配水量1m ³ 当たり電力消費量 | 0.16 kWh/m ³ /年 | 0.15 kWh/m ³ /年 | 0.15 kWh/m ³ /年 | 0.16kWh以下/m ³ /年 | ▲ | | |
| | 3 | 民間活用の検討 | ・基盤強化の選択拡充のため、DB発注方式など地域の実情に応じた官民連携の検討を行う。 | 1 | 継続 | | | | | | | | |
| | 4 | 広域化の検討 | ・大阪府主催の「府域一水道に向けた水道のあり方協議会」に参加し、広域化に向けて検討を進める。 ・大阪広域水道企業団と「企業団との統合に向けた検討、協議に関する覚書」を締結し、広域化に向けた検討を進める。 | 1 | 継続 | | | | | | | | |
| | 7. 持続可能な 経営に努めます | 1 | 安定した経営の継続 | ・アセットマネジメントを取り入れた計画に基づく予算編成・執行管理を行う。 ・補助金等の財源を確保することにより企業債残高を抑制する。 ・中長期的な視点から適正な料金水準の検討を行う。 | 1 | 継続 | 経常収支比率 | 101.3% | 104.4% | 106.7% | 100%以上 | ▲ | |
| | | 2 | 有収率の維持及び料金収納率の向上 | ・計画的かつ効率的な調査の実施と、調査結果蓄積による漏水防止対策の検討を行う。 ・適切な水道メータの検針や替替・管理業務を継続しつつ、料金未納者への適切な措置を講じる。 | 1 | 継続 | 給水収益に対する企業債残高の割合 | 359.6% | 445.7% | 428.1% | 500% | ▲ | |
| | | | | | | | 料金回収率 | 97.5% | 100.0% | 101.9% | 100%以上 | ▲ | |
| | | | | | | | 流動比率 | 218.8% | 126.3% | 151.3% | 200%以上 | ▲ | |
| 3 | 財源確保の検討 | ・施設用地の一部を一般企業に貸し出して、使用料収入を得る。 ・耐震化補助金の採択基準を達成する。新たに活用可能な補助金を検討する。 ・収入の確保、費用の削減の取り組みにより収支改善を図る。 | 1 | 継続 | 有収率 | 94.7% | 94.8% | 95.3% | 95.0%以上 | ▲ | | | |
| 4 | 組織力の維持・強化 | ・局で実施している事業を円滑に進めるため、技術職員の確保を人事担当部局も協力して努力をしていく。 ・職員の資格取得を奨励し、全体としてスキルアップを図る。 ・基礎知識の習得を目指し、電子教材を作成して新規配属職員向けの研修を実施した。 ・各課におけるマニュアルの状況確認、整理、改善の検討を行う。 | 2 | 継続 | 企業債充当率 | 100% | 100% | 100% | 75% | ▲ | | | |
| | | | | | 水道技術に関する資格取得度 | 1.43件/人 | 1.68件/人 | 1.67件/人 | 1.43以上件/人 | ▲ | | | |
| | | | | | 外部研修時間 | 3.6時間/人/年 | 4.5時間/人/年 | 1.9時間/人/年 | 7.0時間/人/年 | ▲ | | | |
| | | | | | 内部研修時間 | 1.7時間/人/年 | 3.8時間/人/年 | 3.9時間/人/年 | 3.0時間/人/年 | ▲ | | | |
| 業務マニュアル整備率 | 75% | 86% | 86% | 100% | ▲ | | | | | | | | |